※令和４年度以降入学生用

学校番号	1017

令和５年度　音楽科

教科	音楽科	科目	ソルフェージュ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	標準バイエル　（全音楽譜出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

忍耐強く継続的にまた音楽をピアノで表現することの楽しさを学習しましょう。ピアノ音楽の美しさを味わえるように、特に将来に必要な職業を目標としている人は楽しみながら努力を惜しまないで進みましょう。また、どうすればピアノの技術が身につくか、音楽的な演奏ができるか考えたり、発表までに課題の進度を考える計画性も一緒に身に付けましょう。

２　学習の到達目標

個人レッスンを通じて技能向上を目指し、上達することで音楽（楽器）を愛好する心を育て、感性を高める。音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる脂質・能力を次の通り育成する。

１　ピアノを弾くために必要な読譜や音楽記号について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

２　自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって演奏できるようにする。

３　主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・ピアノを弾くために必要な読譜や音楽記号の知識について理解を深めている。【知識】 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付け創造的に表している。【技能】	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもっている。	楽器の音色や奏法の特徴に関心を持ちそれらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
第1・2クール	基礎的なテクニック	読譜の基礎としてバイエルピアノ教則本を用い、まず、楽譜に慣れるようにする。 ・個別にレッスン指導 ・第１次成果発表 ・音読み（ト音記号）	a:【知】バイエルを弾くために必要なト音記号の音を楽譜上で理解している。 【技】音楽を表現するために必要なピアノの基礎的なテクニック（手の形、指の使い方）を身に付けている。 b: 楽譜に忠実にまたイメージを持って表現しようとしている。 c: ピアノの習得に主体的に意欲的に取り組んでいる。	小テスト 発表	発表 ワークシート	観察 ワークシート
第3・4クール	正しい姿勢奏法	よい音を出せるように姿勢・奏法を取得する。 ・個別にレッスン指導 ・第２次成果発表 ・音読み（へ音記号）	a:【知】バイエルを弾くために必要なへ音記号の音を楽譜上で理解している。 【技】音楽を表現するために必要なピアノの基礎的なテクニック（手の形、指の使い方）を身に付けている。 b: 楽譜に忠実にまたイメージを持って表現しようとしている。 c: ピアノの習得に主体的に意欲的に取り組んでいる。	小テスト 発表	発表 ワークシート	観察 ワークシート
第5クール	自然な表現	音楽としての表現力を身につける。 ・個別レッスン ・年間成果発表 ・音読み（ト音記号・へ音記号）	a:【知】バイエルを弾くために必要なへ音記号の音を楽譜上で理解している。 【技】音楽を表現するために必要なピアノの基礎的なテクニック（手の形、指の使い方）を身に付けている。 b: 楽譜に忠実にまたイメージを持って表現しようとしている。 c: ピアノの習得に主体的に意欲的に取り組んでいる。	小テスト 発表	発表 ワークシート	観察 ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用